



はぐ便り

2019年
1月号
【第62号】

こんにちは! 新しい年がスタートしました😊世間では「平成最後の〇〇」という言葉が盛んに飛び交っていますね。新元号はどんなものになるのかなあ?とワクワクする反面、30年以上続いた「平成」が終わってしまうというのも名残惜しいですね💧

豊かな感性を育むために



すばらしい
1年に
なります
ように☆

もうすぐ9歳になる私の長男が2歳の頃の話。良く晴れた冬のある日、外で遊んでいた息子が、軒下を指さして「あれ、なあに?」と聞くので「つらだよ」と答えと、そのつらからポタポタと雪が。息子は落ちていく雪をじっと見つめ「おかあさん! つらのなみただね!」とその様子を教えてくださいました。まだ言葉を話し始めて間もない息子の表現力に、私は寒さも忘れほろりとしたことを、この時期になるといつも思い出します。

子どもの感性豊かな表現力には、嬉しくなったり、笑わせられたり、時にはドキッとさせられたり。子どもの感性は、日々少しずつ積み重ねてきた経験や、家族や友達、先生などとの日々の関わりの中で育まれていきます。子どもというのは、元来豊かな感性を持っていて、みんながそれを素直に表現できるそうです。しかし、成長していくにつれて、その素晴らしい感情を表現しなくなる傾向にあります。

感性を育むためのPOINT

① 子どもの感性や表現をまるごと受け入れ 認めよう
子どもの言葉に耳を傾け、子どもの目線で聴き、表現している内容の理解に努めましょう。

② 子どもと感重力を共有しよう🌸
子どもの発見や驚きに対して「あ、そう」と聞き流したり、「そんなの当たり前でしょ!」などと言わず、「すごい発見だね!」「もっと見つけて教えてね」「その気持ち、よく分かるよ」などと共感したり、ほめたりしましょう。

③ 豊かな会話で家庭を包もう💖
単語だけで用件を済ませる味気ない会話ではなく5W1Hを意識して、文章で話すよう心がけましょう。また、夕食時などはテレビを消し、1日の家族の出来事を話す時間にする事で、豊かな会話が生まれ、子どもの表現力は自動的に磨かれます。

④ 豊かな感性に出会わせよう☆
優れた感性はそれに触れる人の感性を刺激し、その人の感性を高めます。音楽に耳を傾けたり、絵や写真などを見て、じっくり味わうのもいいでしょう。

わが家ではテレビを消す消さないで毎晩ひともんながらありますが、心を鬼にして消しています💧

⑤ 感重体験を多く持たせよう🍀
感重とは「心を強く動かされること」。嬉しい・楽しい・おもしろいなどの体験の機会を多く与えましょう。逆に、悲しい・悔しいなどの体験は、一見マイナスのような気がしますが、マイナスの体験に出合った時に、それにどう立ち向かい乗り越えていくのかという過程が、その後の長い人生において、貴重な糧となります。子どもが自分なりに乗り越えた時には、ぜひその過程を評価してあげましょう。大人に認めてもらうことで、忍耐力や相手を思いやる心が育まれます。

小・中学生はさらにSTEP UP アップ

⑥ 文章表現力を身に付けさせよう📖
日記や詩を書くことに慣れさせましょう。書くことに抵抗を示したり、面倒がる子もいるかもしれませんが、継続して少しずつ慣れさせることが大切です。

【参考資料：研究紀要 2010年創刊号「子どもの感性を育てる～言語表現力を育てることを通して～」阿川士郎】

寒くてお家で過ごすことの多いこの時期だからこそ、ゆったりとした気持ちで子どもの声に耳を傾けてみてはいかがでしょうか?

今年もよろしくお願いします🍀

